

# 愛媛教職員組合 (JTUえひめ)

2017年11月25日発行  
(愛媛教研版)

## 第54回愛媛・父母と教職員の教育研究会

2017年10月21日(土)

会場：愛媛県勤労会館

### オープニングセレモニー



演奏の様子

#### ① 弾き語り：ガチャピンの相棒

★ こりや一番厄介 詞・曲：ガチャピン ★

♪ 行きがかり上 そうなった

これが一番 厄介 厄介 そんなことが二度三度  
四度 五度 六七度 今更 相手に 嫌だと言えない  
相手はいいと思っている 相手に悪気はない

これ厄介 一番厄介

楽しそうに見えても 実は不満タラタラ

合わせていれば 相手は満足

でも こっちは楽しくないんだ

・・・ もう止めたいよ 僕の本音 ・・・ ♪♪

### 参加者感想

- 多彩な曲を短い内で歌っていただき、健在ぶりを發揮してくれましたこと、うれしく思います。
- 歌がお上でメッセージ性もあり、楽しませていただきました。

### ② 組合紹介DVD上映（今までの組合活動のダイジェスト版）★BGM・センスがいい。（参加者感想）

愛媛教職員組合では、春から夏にかけて教員採用試験の学習会、夏の研修会（水平社博物館・リバティ大阪、国立療養所大島青松園での現地学習、県教委交渉報告など）、秋の愛媛・父母と教職員の教育研究会（第47回愛媛教研では、講演：福田誠治さん「学力とは、そういうものではありません」、また第52回では、講演：森達也さん「世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい」など）、冬の研修会（インクルーシブ教育、合理的配慮、LGBTの学習など）、教育改革アンケートの実施を踏まえての県教委交渉、人事委員会交渉、学校にも働き方改革の取り組みなど、多々活動を積み重ねてきました。ぜひ、研究会・研修会にご参加ください。そして、学びを深め合いましょう。



### 開会あいさつ

越智 勇二さん：愛媛に民主教育をすすめる会 会長



あいさつの様子

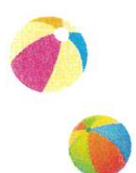
今年度のテーマは、在日外国人の人権であります。幕末の開国以降、征韓論、日清・日露戦争、日韓併合、1931年の満州事変に始まる大陸での十五年戦争、米英を相手の太平洋戦争と続きましたが、1945年、ポツダム宣言を無条件で受け入れ敗戦を迎えました。戦争を遂行するために、修身、大日本帝国憲法、教育勅語を使って、人々を、戦争遂行する人間を育ててきたと思います。強制連行や創氏改名、同化政策を展開し、外国人も、日本人として拳国体制を作り上げました。戦後教育は、教育基本法、日本国憲法を主軸に、民主教育を始めました。ただ、戦後も憲法の施行直前の1947年5月2日の勅令によって、「当分の

間、外国人とみなす」とされ、今日につながっているのです。朝鮮半島との戦争処理が不十分で、完了していません。在日朝鮮人が同化政策で言語や文化を奪われ、朝鮮人としてのアイデンティティを奪われた中で、それらを獲得する民族教育は当然尊重されるべきです。

福井県の中2の子どもが、担任や副担任から、大声で叱責されて自死した事件が報道されています。指導死といわれています。教職員が子どもの立場に立って行動していれば、あり得ないことだと思います。

来年度から使われる特別の教科道徳の教科書採択では、現場の教職員や保護者市民の希望しない教科書が、松山市では採択されました。道徳に直接携わる教職員は、同和教育・人権教育がこれまで積み上げてきた実績をもとにして対応すべきだと思います。来年度以降の中学校の採択など、現場の意見が反映されるような、民主的な採択を粘り強く求めていきたいと思います。

日本の学校の課題は、さらに超勤多忙、学力テスト、免許更新制などいっぱいありますが、原点に返って教育を考える機会にしてもらいたいと思います。



## 四国朝鮮初中級学校児童生徒による発表

朝鮮舞踊(基本)

朝鮮舞踊(こま遊び)

司会

### 躍動感あふれる踊り！！

### 生き生きとした合唱！！

表情 豊かな ♪♪♪ 合唱 「明日への出会い」

## 参加者感想

- 司会…はきはき、すばらしい。踊り…すばらしい表現力。指先まできれい！合唱『明日への出会い』…一人ひとりの表現が（表情）がいい。
- 子どもたちが民族の誇りを、身体中で表現している姿に胸をうたれました。
- 愛らしい表情、豊かな踊りや歌を披露していただき、在日の子弟に対する並々ならぬ教育への情熱と決意が直に伝わってくる思いで、以前、参観させていただいた四国朝鮮初中級学校の運動会の熱気を思い出しました。
- 子どもたちの笑顔がすばらしかったです。演技もよく練習されていることがわかりました。
- 子どもたちの生き生きとした笑顔が印象的でした。

## 報告：徳島県教職員組合より

### 「徳島県教組襲撃事件裁判を闘って」

富田 真由美さん

2010年4月14日、徳島県教組が四国朝鮮初中級学校へ支援したとして、在日特権を許さない市民の会（在特会）が組合書記局を襲撃した。4月21日、組合が襲撃メンバーを刑事告訴すると4月28日、徳島県庁前で襲撃メンバーらは、刑事告訴に対する抗議と称するヘイト街宣を行った。9月8日、襲撃メンバー19人のうち7人逮捕。9月29日、襲撃メンバー6人が威力業務妨害と建造物侵入で起訴される。

刑事裁判では、襲撃犯6人に有罪判決。しかし、名誉棄損は不起訴とされた。検察審査会に不服申立てをした。検察審査会の不起訴不当議決をへて、2013年12月25日、襲撃犯2人に罰金刑。2013年夏、徳島県教組と元書記長が、在特会と会員ら10人に約2千万円の損害賠償を求めて民事裁判を起こす。2015年3月、徳島地裁判決は約230万円の支払いを命じたが、在特会らのヘイト行為を人種差別と認めなかった。そして控訴。2016年4月25日、高松高裁は徳島判決をくつがえし、襲撃事件を人種差別と認定。更に11月1日の最高裁判決でも、在特会側の上告を退け、在特会側の行為を「人種差別に該当する」と判断し、約436万円の支払いが確定した。

書記局に乱入されてから、裁判が確定するまで大変な闘いだった。多くの支援者が、裁判にかかわってくださった。この判決は「差別を許さない」と、一歩もひかない人たちの力で勝ち取ったものだった。襲撃時の人格権を侵害した浴びせられる罵声と書記局業務の妨害に暴行。ヘイト街宣。「支援しなければ、こんなことにはならなかつた。」と言う声、おみくじをひいても凶、自分が何か悪いことをしたのだろうかと・・・。うつ状態の日々。しかし、こんな人格を侵害した、そして人種差別が許されていいのか。人間の尊厳を守る闘いだった。



報告の様子

## 参加者感想

- 富田さん…『人間の尊厳を守る闘い』の言葉が心に残りました。PTSDを起こすほどのつらさ、怒りだったと思います。私も部落差別解放のための闘いを思い出しました。お体を大切に。
- 不当行為に対して、苦しい裁判を通して闘いぬかれた富田先生の信念の強さに感銘を受けました。

- 事件の事は詳しくは知りませんでしたが、実際に報告を聴いてその悪質さと被害者の恐怖を思うと許しがたい行為だと憤りを感じます。
- 生々しい闘いの報告がすばらしかったです。希望が見えてきました。
- 不合理なことに対する連帯のあり方を学んだように思います。

## 講 演



### 演題 「在日外国人の人権」 — 四国朝鮮初中級学校で見たこと・考えたこと —

講師 魁生 由美子さん 愛媛大学 准教授（教育学部 社会科教育）

多文化共生について研究している。尼崎というところで生まれ育った。その尼崎には、園田朝鮮初級学校があった。その後、園田苑という施設に変わった。園田苑の母体の理事長と、ある場所でお酒を飲んでいて陝川（ハプチョン）の原爆資料館の話をしていたら、声をかけられた。「ねえちゃんはどこのこ？」「あなたの故郷はどこですか？」と聞くと「慶尚南道（キョンサンナムド）」と「昌原市（チャンウォン）」と教えてくれた。「このこらにビール持ってきてやって。」ということになる。沖縄、四国、在日、香港、ベトナム、フィリピン、海外から、いろいろなところから移り住んでいる人がいる地域である。多様な人がいる。違いがよく目に見える。



講演の様子

愛媛というのは実は、多様性、ダイバーシティに関しては分が悪い。

外国人住民が圧倒的に少ない。全国（韓国籍についていえば）で一番外国人が少ないのは徳島。四国でいうと高知、香川、愛媛の順。愛媛では今、韓国籍よりも中国籍の方のほうが多い。それでも外国籍住民は少ない。多いところはどこかというと、大阪、東京、兵庫となっている。ただ、愛媛にもアジア系の子ども、親も住んでいる。祖父母も住んでいる。でも人数は少ないというのがわかる。（1200人ほど）

四国朝鮮初中級学校で学ばせもらったことについて話そうと思う。全国の朝鮮学校は1945年の日本の敗戦後たくさんできた。国語講習所という名称であった。中四国での数は減ったが現在は、松山、岡山、広島、下関にある。以前は出雲や宇部にもあった。

日本では敗戦であるが、朝鮮の人にとっては祖国解放。あるいは光復（光が復ってくる）ともいう。それまで抑圧されていた祖国の言葉を、勉強したいということで講習所が増えてきた。日之出教室、宇和島教室、松前教室、高岡教室、周桑教室、新居浜教室、八幡浜教室、長浜教室、愛媛でも何カ所も国語講習所ができた。2015年には学校創立70周年となった。松山の朝鮮学校の様子をお見せします。今の場所に校舎ができたのが1964年11月。現在までに校舎は50年の月日が経ってしまっている。記念で植えた銀杏は50年も経ちとても大きくなっている。校舎にはお父さんお母さんありがとうとハングルで書いている。学生を連れて朝鮮学校にも訪問しているが、その学生も卒業し現場の教員として働いている。とても忙しい様子である。買い物に行く時間もないといって、コンビニでカルボナーラとポテトチップスを買って生きていると言っている。どうにかしてやりたいと思っているが、歯を食いしばって頑張っている。

学生は行事に参加すると、食堂でハンバーグとサラダとワカメスープをもらうことがある。ワカメスープは朝鮮では誕生日に食べることが多い。産後のお母さんの血がきれいになると黙って食べることもある。白菜キムチやキュウリキムチも出してくれる。時間割は日本と少し違う。国語というと朝鮮の言葉。日本の言葉も学習するが、それは日語と書いている。その他の教科は日本と同じ。学生数は16名、先生7名、非常勤2名で運営している。手洗いが使用禁止になっている。学費は保護者負担と寄付によってまかなつており、公的な補助は愛媛県と松山市から合せて年間80万円のみ。公立の教諭のボーナス1回のみの金額ほどしかない。後は自力でまかなえとなっている。大阪の場合は止まっている。各県で様子が違っている。四国朝鮮初中級学校の若手の先生でひと月10万円程の給料。松山市で考えると生活保護基準くらい。

5年ほど前から関わりを持たせていただいている。学生も連れて朝鮮学校に来させてもらうようになっている。運動会では、紅組と青組に分かれて競っている。保護者も本気で種目に参加している。参加したい人は参加できる運動会。コミュニティとして機能している。その運動会に連れて行った学生から「生徒は日本語を話すんですか?」と聞かれた。歴史を知らないでショックを受けた。チャンゴという民族楽器や民族舞踊を学習している。学生を連れて行くことで松山市も日本人ばかりのように見えるけど、多様なのだとわかつてもらいたい。

70周年学芸会に連れて行った学生から(朝鮮の文化が好きで、朝鮮語の勉強もしていた学生)国語講習所の写真を見て、人ごとのように発言することにショックを受けた。朝鮮のことを愛を持って語って欲しいと思っているが、なかなか学生には理解してもらえない様子。あきらめずこつこつ学生に話していくと思う。

中村一成さんの「ルポ朝鮮学校襲撃事件」を学生に紹介。「読んでどう思いましたか?」と聞くと、学生は「難しくてわからなかったですが、いろいろな意見があると思いました。」と答えた。この生徒は附属高校出身の学生。最近の学生は本を読まないので、動画を見ることを勧めた。「少女たちの再出発 ヘイトスピーチを乗り越えて NHK」それでも理解できない様子。

こういったショックを受けるが、何度も出発する覚悟をして現場で格闘したいと思っている。そうでないと、誰かがきっかけを作らないと、忘れっぽなしになっている。戦争で私たちがしてしまった過ちをないものとしてしまう危険がある。忘れてしまふことさえ忘れさせようと、教育が仕向けていたようにさえ感じる。

朝鮮学校にあるものとないものは何か、書き出してみた。

**あるもの**・・・「国語」=朝鮮語、朝鮮の名前、小学校以前は朝鮮語に触れる機会があまりないが、小学校入学後あっという間に身についていく。身のこなしも朝鮮らしい身のこなしが身についてくる。

私が朝鮮語を勉強し始めたのは兵庫県。そこで在日1世の人々に教えてもらった。豊臣秀吉をどうとらえるか。日本側からだと為政者、朝鮮側からだと侵略者。見方によって評価は違ってくる。こうやって歴史を朝鮮側から地理や歴史を学ぶことができる。

運動会には、遠くから帰ってくる同窓生もいる。朝鮮学校コミュニティとなっている。差別されない、日本人からめんどくさい質問されないで安心できる場所。私の知人が民族名でホテルにチェックインしようとすると、「パスポートを見せてください。」と言われた。「パスポートどうするの?」「コピーをとって警察に!」日本生まれで日本育ちで、日本の学校でいろいろな差別を経験しながら自力で朝鮮語を獲得した「我々の存在は何なのだ」と思ったと話された。そうやって日本の中で強く生きていくために団結できる場所として、そういう差別から切り離される場所として、朝鮮学校があることの意義は大きい。

**ないもの**・・・たくさんある。まず体育館がない。プールがない。夏休みに納涼会がある。グラウンドにライト設備がない。公立であればほとんどライトがある。七輪で調理する。その明かりしかない状態になる。すっかり日没になり片付けはどうするか。車のライトを集めてする。毎年やっているので手際が良

い。あつという間に片付けをしている。ただ何でグラウンドのライトがないのか。そこには公費が入っていないから。恐ろしいことに冷房も入っていない。卒業生に何が欲しいかという、リクエスト募集があった。大きな扇風機となった。何台か送られてきた。

それに対して日本の学校ないものもあるものは？

ないものは「国語」＝朝鮮語、そして朝鮮学校コミュニティ。

あるものは、限定的な朝鮮の歴史地理を学習している。あるものは大変潤沢。日本は世界的に最も高水準に高等教育に金を払うところ。ヨーロッパだと2、3万円、アメリカだと500万円から1000万円。ココにしようとしている。市町村が作っている学校は作りがすごいのでさわりなくなる。小中高はお金をかけていると思う。予算のかけ方で朝鮮学校への差別が理解できると思う。あえて差別と言って良いと思う。だから朝鮮学校で民族教育を受けることが大事。戦後の教育行政の中には同化政策が組み込まれているのだと思う。朝鮮学校にも同じように公的資金を入れますというと、朝鮮にルーツを持つ子たちは朝鮮学校に行く。そうはしていない。すると親の教育資金は朝鮮学校にいくと大変大きくなる。だから日本の学校に行く人もいる。安く行ける。耳障りはいいですが、同化は差別。違いを前提で同じ地域で暮らせることが大事。少数者の人権にとって一番大事な部分をそぎ落として進めてきたのが、日本の教育行政。1945年以前は日本では朝鮮語使用禁止。朝鮮では日本語禁止。朝鮮の名前を使用できなかった。そこから尾を引いているように思う。

同化しないとはどういうことか。エピソードをもとに紹介します。保育所の若い先生からビデオメッセージが届く。朝鮮の名前の付け方は大変奥深い。家族でルールを決めて2000年の歴史がある。小学校の卒業式にもらったビデオメッセージで朝鮮の名前で呼んでくれていた。当たり前のように日本ではあまり当たり前となっていない。民族名を取り返そうとしたとき、アイデンティティクライシスに出会うことになる。その一端に立ち会うことになった。最近文科省は異校種で連携するといいことがあると考えているのでしょうかね。高校生と大学教員が関わりをもち、課題研究に取り組んだ。日本の「あいうえお」はハングルでも書ける。そこで自分の名前をハングルで書こうという宿題を出そうか迷っていた。その課題研究に参加した朝鮮にルーツを持つ学生、たぶん3世か4世だろうと思われる。自分のルーツについて話し始めた。そこでショックだったのが課題研究を担当している高校の先生の様子。カミングアウトしている高校生の様子にどん引きしている様子があった。慣れていない。凍り付いている。高校生に課題研究のために、本のリストをあげて見せて欲しいという課題を与えた。そして本の名前を聞くと、全て嫌韓本。最近ケントギルバートもレイリスト？彼も日本では少数者なのに。少数者が少数者を差別してどうするのだ。びっくりしたのだけど、びっくりしないふりをして、高校生におもしろくなさそうなベージュ色の本だったら、ハズレはないだろうなと話した。ここ40年くらい売れ続けている本がいいよと言った。あんまりびっくりしたので、朝鮮学校の年配の先生に尋ねた。

気持ちはよくわかる。と返事をした。魁さんは日本人だからわからんと思う。差別されたしんどい経験をしたことある人は、自分の属性をしんどい部分からしか見ない。いい部分をいい部分から見なさいと言われても見れないのが、しんどさなのだと。揺らぎを経験した人たちのことを十分理解できていなかった自分自身も音痴なのだと思った。

将来教員を目指そうとしている学生に対して送るメッセージ。教員の世界を反省する。高校以降の友達とはよく会うが、小学・中学の友達からは疎遠になっている若者が多い。「何で大学に行こうと思った？」



会場の様子

と聞くと、「みんな行くから。」と返事をする。日本は分断されていっている。朝鮮語を勉強してもヘイトクライムの痛みを想像できなくなっている。分断というのは恐ろしいなと思う。教員の世界も例外でない。型にはめられる世界。大学の教員はひとりにひとつ研究室が与えられる。スクリーニング、ふるいわけ、適格審査される世界。川崎市はエスニック色の強いところ。在日コリアンもたくさんいる。沖縄出身者もいる。そんな家庭の中には経済的に困窮しているところもある。その子どもたちも学校に通わず生活が崩れてしまうこともある。そんな子どもたちに寄り添う「ふれあい館」という施設がある。その施設の中で子どもが子どもを殺してしまうことがあった。しんどい状況の子どもが、またしんどい家庭を再生産してしまう。そんな中で小中高の先生方は助ける役目にならないといけない。でも教員の世界しか知らないのでできない。同じような状況の仲間の中にいると考え方が固定化されてしまう。ものの見方、考え方が分断されてしまう。すると違う立場の人たちのことを想像できなくなっていく。勉強したり本を読んだりすると達成感があるから勘違いをしてしまうことがある。自分よりも経験している人、頑張っている人にどうされることが大切。自分が無知であることを知ることが大切。そうでないとしんどい経験をする子どもたちを見ることはできない。他流試合に参加することが大事。点数にならないことをしないと、頭はいいけど自分と違う立場の人に冷淡な人になると思う。

反ネオリベラリズム（反弱肉強食）のダイバーシティ（多様性）は可能か。

- 3つの差別、解毒の方法
- ①長幼の序・・年齢の差
  - ②性差・・・男女の差
  - ③自民族中心主義・・・反省しよう、やめよう



サムナーの言葉も参考になる。内々はすばらしいが、外はいかん。その内々は伸び縮みする。我々の集団はすばらしいが、他人の集団はだめという考えは毒が強い。

日本の中の差別を容認し、自分の目の前の不利に立っている人に共感しないということは、自分の立場がいつ危うくなるかということです。自分に困った歴史が繰り返されることです。

自分の人権を守るためにには、他人の人権も大切にしないといけない。

### 参加者感想

- 学生を教える難しさは分かるような気がします。時代が違うことと、これまでの日本の教育の結果で、今の学生がいる。若い人がいると思いました。たいへん勉強になりました。機会があればまた、講演を聴きたいと思いました。
- 立場を超えて講演に臨んでいただいた講師の方が繰り返し触れようとしていたのが、在日の人権が日本社会の中で覆い隠され、打ち捨てられてきたということではないかと聽かせていただきました。戦前の植民地政策、同化政策が戦後70年の今も連綿と続けられていて、それが日本社会の差別構造を形成していることを皮膚感覚で伝えてくれ、差別の非人間性と同時に差別を通して見た社会の非人間性をあぶり出してくれたように思います。学びを学校が独占して、本来あるべき学びを失わせたとすれば、私たちはどうやって教育を回復していくべきかを改めて教えられました。今日の講師の先生との『出会い』もまた、その回復チャンネルのひとつに違いないと思いました。
- 今後、多人種・多民族が日本で共存していかなくてはならない時代が予想され、平等に教育を受ける権利が変化することは、さけられない状況にある。
- 在日外国人の人権は現在あまり守られていないことを、資料をもとに詳しくお話を聞いてください

ありがとうございました。今日、参加していただいた四国朝鮮初中級学校の児童生徒の皆さんに、日本の学校と同じ条件で教育が受けられるように、より強い運動をおこさなくてはいけないと、強く感じました。

- 自分が何ものか？という自分のアイデンティティを育てること。行政によるあからさまな差別。地域では地域人として生きている。
- 「ともかくも、ここから何度でも出発する覚悟を」「あきらめてはいけない」の言葉が印象的でした。四国朝鮮初中級学校の様子がよくわかりました。知らないことは罪である。知ることから始めたい。

### 閉会あいさつ 田中 正史さん：愛媛教職員組合 委員長

四国朝鮮初中級学校の演技の笑顔が素晴らしい。毎日の疲れを背負ってここに来ましたが癒やされました。校長先生、子どもたちに伝えてください。

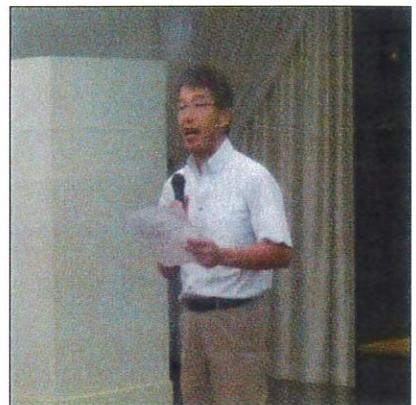
富田さんの報告は何度聞いても切なくなります。でも、その闇いが種になって広がっています。連帯が大きな力になることを示してくれました。これからも輪を広げてください。

魁生さんの講演を聴いていて、いっぱい思い出したことがあります。初めての全同教に参加しての感想に「新居浜の在日のことをもっと知りたい。」と書いたら、市教委から書き直しを求められたことの怒り。結婚した後に参加した全同教から帰った晩、「今日の部活の試合で、監督が朝鮮人に似ていた。おかしかった。」「そうなん。」と笑っている母娘の会話に怒り。妻と話し合いました。

私は学生の時に部落差別を学習していません。在日の差別を先に知りました。手塚治氏の短編マンガからです。部落差別は白土三平氏の「カムイ伝」からです。

なぜ学校で学習していないのに先に知っていたのか？考えました。いずれも小学6年から中学1年まで。その前後は図書室の本を読みあさっていました。この時期はマンガを夢中なって読んでいました。教科書や図書室の本にないことを学校の外の貸本屋で知ったのです。

大事なことでも学校で学ばない、学べないことがあります。だから教科書になくても、大事なことは子どもに伝える。教員には、その感性と覚悟が必要です。



あいさつの様子

### 子どもたちと教職員の生活を守るため、共に考えましょう！

私たち愛媛教職員組合は、年に数回、研修会（研究会）を開催し現場での力量を高めています。ぜひ、ご参加いただき共に学びましょう。

質問や感想がございましたら、ご気軽にご連絡ください。

〒790-0813 松山市萱町6丁目42 コーポラスかやまち1F

TEL(089)924-4546 ／ FAX(089)924-4403 ／ e-mail [jtuehime@lime.ocn.ne.jp](mailto:jtuehime@lime.ocn.ne.jp)

HP <http://jtuehime.sakura.ne.jp/>

愛媛教職員組合 書記長 堤 剛



## 笹田徳三郎氏が死去

元県議社民県連代表務める

88 歲

は社民県連代表を務めた  
08年に旭日双光章。



県教組委員長などの立場で勤務評定闘争や学力テスト反対運動に関わった元県議の笛田徳三郎（すきだ・とくさぶろう）氏が20日午後8時31分、間質性肺炎の

ため松山市の病院で死去した。88歳。西予市出身。自宅は松山市六軒家町3の22<sup>。</sup>葬儀・告別式は23日午後1時から松山市築山町5の16、小倉聖苑築山ホールで。喪主は妻良子(よしこ)さん。

2017. 11. 22(火)

愛瑞新庫

## 弔　辞

笹田徳三郎先生　先生はご家族や地域の人々にとっても大きな存在だったでしょうが、私たち教職員はじめ労働者、民主主義を愛する人々にとってもかけがえのない人でした。

先生のご功績の最も大きなものは、昭和50年つまり1975年9月16日に成立した、勤評裁判の和解でした。愛媛県教組がかつて12000人を擁し、日教組の中でも御三家と言われ、国政選挙では、推薦した革新候補が連戦連勝を続けていたのでした。勤務評定は、県教組の弱体化を狙って61年前の1956年に、教員に良い先生悪い先生の評価をつけて勤務評定書を校長に作らせて教育委員会に提出させ、昇給等の材料にするというものでした。57年、58年と3年連続で攻撃され、評定書を拒否できる校長はいなくなりました。校長を先頭に組合脱退者が増え、58年に2000人、59年に4000人、60年に1000人と3か年で7000人脱退しています。この脱退工作や昇給差別、人事差別は、残酷物語として語り継がれています。日教組を多く脱退させた県つまり正常化県は、全国学力テストで日本一になれと猛烈なプレッシャーをかけ不正が横行したのでした。勤評による組合員差別から、71年10月8日に提訴（勤評差別特昇裁判）、松山地裁の和解勧告を受けて和解交渉をしたのが笹田先生でした。和解の結果、差別されていた組合員の賃金水準は、数年かけてほかの人並みに戻りました。

愛大の星島一夫さんのインタビューに白石春樹元知事が、「私は、笹田徳三郎君たちがガタガタ組織が動搖しながらもじっと頑張っておるということは偉いと思っておる。チェック機能をある程度もっている。私はまだ愛媛がこの程度でおるんであって、県教組がなかったらまた向こうを向いていくかもしれませんよ。だから、県教組の存在は必要じゃというふうに見ておりますね。」と答えています。

組合側からの立会人であった山本幸雄さんは、95歳できょうも奈良県から駆けつけて下さり参列されていますが、「この和解は、愛媛の教育史上では特別な歴史の1ページだと思う。笹田さんの粘り強い交渉力や堅実な行動力、それを支える確固とした理論などが日教組本部を動かし、また県教委を動かして交渉のテーブルを設定させたことは、明確な事実であるだけは明記しておこう。」と述べています。

こうして今日、教組と県教委が交渉でき、私たちの側から見ても当たり前の関係性が持てるようになったのも、笹田先生のおかげと思っています。労働者や市民が参加できる父母と教師の教育研究集会、シンクタンクの愛媛民主教育研究所、議員に出るときは多くの労働組合から応援をいただきました。先生の愛した日教組、愛媛地評・松山地区共闘、そして日本国憲法、社会党・社民党を、私たちも大切にしていきたいと思います。

先生はもう充分たたかわれました。

安らかに眠ってください。

2017年11月23日

愛媛教職員組合  
日教組オルガナイザー  
越智勇二